

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	初回献血者が再度献血に向かう要因を検討する (初回献血者の回帰率に関する研究 (国際共同研究))
研究期間 (西暦)	2018 年 3 月～2019 年 3 月
研究機関名	日本赤十字社 血液事業本部
研究責任者職氏名	技術部 次長 高梨美乃子

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

初回献血者の獲得と献血者数の維持を目的に、献血に積極的に協力した方の背景を解析した研究が行われておりませんでした。そこで、初めて献血に協力した方が、その後の2年以内に再度献血に協力することにつながる可能性の高い背景を献血者情報の中から検索します。なお、本研究はBiomedical Excellence for Safer Transfusion Collaborative (輸血医療に関する国際的研究組織)の”Donor Return - Impact of First-Timers Characteristics (DR-IFTc)” (再来する初回献血者の特徴) 研究グループにおいても、他の国の情報も含めて解析します。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：なし

献血血液等の情報：初回献血日、献血場所 (固定施設、バス、オープン)、献血者区分 (高校生、大学生、会社員等)、献血者年齢、性別、体重、血液型 (ABO 型、Rh 型)、ヘモグロビン値、ヘマトクリット値、2 回目の献血日、献血種別

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

School of Psychology, University of Queensland Associate Professor,
Barbara Masser (研究グループ代表者)
大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授 杉森裕樹

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

2014 年に初めて献血にご協力された者と対象にして、その後2年間に再度献血にご協力いただいた方の献血者情報を抽出します。

抽出した後、統計学的手法を用いて献血の協力に向かわせる要因を解析します。なお、解析は献血者コードを削除して個人が特定できない状態の情報のみを使用し、血液は使用しません。

5 献血者情報等の使用の拒否について

使用する情報をシステムより抽出する前で、個人の特定ができる状態であれば研究使用の拒否が出来ます。ご自身の情報の使用をご希望されない方は下記のご連絡いただければ、その方の情報は削除して利用しません。

6 上記5を受け付ける方法

下記の問い合わせ先にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社 血液事業本部 技術部
担当者	高梨美乃子
電話	03-3437-7205
Mail	m-takanashi@jrc.or.jp